

司 式 熊 田 雄 二 牧 師

前 奏

奏 楽 浅 池 慶 子 姉 妹

開 会 招 詞

* 賛 美 歌 2:1 主のみいつとみ栄えとを 声の限り讃えて
またき愛と低き心 御座にそなえひれ伏す アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈 禱 書 3 罪 の 告 白 ②

主なる神よ、あなたの御前に背きの罪を告白します。わたしは聖なる戒めに従わず、失われた羊のように迷い出て、思いと言葉と行いにおいて罪を犯しました。しなければならないことをせず、してはならないことをして、自分の身に、あなたの怒りと裁きを招きました。憐れみに富んでおられる父よ、罪と過ちを悲しむわたしに憐れみを注いでください。神の独り子である救い主の名によって、わたしを赦してください。聖霊の恵みによって、わたしを新しく生まれ変わらせてください。願わくは今から後、み栄えのために生きる者とならせてください。

主イエス・キリストの御名によって。アーメン。(詩編32、イザヤ53、ローマ7)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈 禱 書 4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。

(出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 2:2 委ねまつる我が重荷を 主は代わりて負いたもう
悩み多き世の旅路も 主のいませばやすけし アーメン

公 同 の 祈 禱 祈 禱 書 6 ニ ケ ア 信 条 (三 位 一 体 主 日)

我らは、唯一の全能の神、天と地と、すべて見えるものと見えざるものとの創造者を信ず。我らは、唯一の主、神の独り子、イエス・キリストを信ず。主は、あらゆる世のさきにも父より生まれ、神

よりの神、光よりの光、造られずして生まれ、み父と同一の本質にいます真の神。万物は彼によりて造られた。主は、我ら人間のため、我らの救いのために天より降り、聖霊によって処女マリアより受肉して人となり、我らのために、ポンテオ・ピラトのもとに十字架につけられ、苦しみを受け、葬られ、聖書に従って三日目によみがえり、天に昇り、み父の右に座し、生ける者と死ねる者とを審くために、栄光をおびて再び来たりたもう。その御国は終わることがない。我らは、生命の与え主にして、主なる聖霊を信ず。聖霊はみ父と御子とより出で、み父と御子とともに礼拝され、あがめられ、預言者を通して語りたもう。我らは、唯一の聖なる公同の使徒的教会を信ず。我らは、罪の赦しのための、唯一の洗礼を告白す。我らは、死人のよみがえりと、来たるべき世の命とを待ち望む。アーメン。

献 金 (黒) 教会活動 (赤) 甲信地区伝道 70

今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン

《 子どもプログラム 担当：門脇光生・熊田なみ子 》

聖書朗読 ルカによる福音書7章18～35節 (新約聖書115頁)

説教・祈祷 「預言者以上の者」 熊田雄二牧師

* 賛美歌 75：2.3 荒れ野に水わきいで

荒れ野に水わきいで 野の花喜べ 花を咲かせよ 野原一面に
おお主イエスよ わが心にも 命の泉を湧き溢れさせ
命の川の流れとなさせて 永遠の御国へと アーメン

* 主の祈り 祈祷書1

天にまします我らの父よ
願わくは御名をあがめさせたまえ
御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ
我らの日用の糧を 今日も与えたまえ
我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ
我らを試みに会わず 悪より救い出したまえ
国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 69 父の御神に・御子に・聖き御霊に

昔ながらの御栄えあれや ときわにアーメン、アーメン

* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告 門脇陽子長老 (司会・受付 次週：古澤純一長老)

本日 受付 1階：長尾牧執事 2階：佐藤紀子執事 / 動画：森川莞太 録音：大日南悠

次週 受付 1階：星野房子執事 2階：古澤迪子執事 / 動画：雨宮信長老 録音：大日南信也執事

Ⅰ 獄中にいるヨハネ

聖書の最大のテーマは、イエスがキリストであるかどうかということです。きょうの箇所は正念場の一つです。あの洗礼者ヨハネが疑っていたのか、という、むしろ私たちが心配になる疑問です。イエスがキリストであることを誰よりもよく知っているはずの人ではなかったのでしょうか。ヨハネの母エリサベトとイエスの母マリアは親戚で、ヨハネの誕生とイエスの誕生に関しては、お母さんのエリサベトから聞いていたはずですが、ルカはそれを詳しく書いています。

大人になって、ヨルダン川でイエスに洗礼を授けてメシアの任職をした時、「私こそ、あなたから洗礼を受けるはずなのに」と言っていたヨハネです。

「私はその方の靴の紐を解く値打もない」と言っていたヨハネ。

「私の後から来る方は、私より大いなる方」と言っていたヨハネ。

「私は水で洗礼を授けるが、その方は聖霊と火で授ける」と言っていたヨハネです。

そのヨハネがなぜ疑問を抱くのでしょうか？ 19節「来るべき方は、あなたでしょうか。それとも、ほかの方を待たなければなりませんか」。ヨハネは、ヘロデ王の結婚のことで、兄の妻を奪うことは律法に反していると、神の掟を語る預言者の使命を果たした結果、牢獄にいるわけですが、ヨハネの弟子たちは、なぜ、解散せずに存続しているのでしょうか。

ヨハネがイエスのことをメシアとして「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」と言ったら、アンデレともう一人の弟子はヨハネから離れてイエスについて行きました。アンデレはペトロをイエスの所に連れて来て十二弟子が整えられることになりました。ヨハネの使命はメシアの道を準備して終わったはずですが。

なぜ、まだヨハネの弟子たちがいるのか。ヨハネは偉大な人であったので、影響力が大きかった様子を、ルカは福音書でも使徒言行録でも書いています。ヨハネの洗礼を受けていてもイエスの名による洗礼は受けていないアポロという雄弁な指導者がいました。ヨハネの弟子たちが相変わらずヨハネから離れないでいる必要があるのか。ヨハネでさえ、まだ本当のキリストの正体がかかめていないのか。疑問は尽きません。

しかし、福音書によれば、メシアが十字架にかかることを知っているのは悪霊のみです。神がメシアによってなされる本当のみわざ、十字架と復活が起こるまでは、人は誰もイエスの正体を知ることが出来ません。ペトロも「あなたこそキリストです」と言いながら、キリストが十字架に架かることは否定しました。

洗礼者ヨハネも、イエスが歩む道の最後に関してはミステリーだったかも知れません。ヨハネはキリストの救いを必要としない聖人ではないのです。イエスを必要とする者は、「神の国で最も小さな者でもヨハネよりは偉大」、とイエスは言われました。ヨハネの偉大さはヨハネ自身によらず、職務によります。つまり、メシア登場の備えをする任務の大きさです。

きょうの話の前の段落で、主イエスから「これほどの信仰」と言われた異邦人の百人隊長は、ユダヤ人ほど多くの聖書知識を持っていませんでした。洗礼者ヨハネに比べれば、

本当に小さな者です。しかし、信仰の本質を持っていました。

II メシアのしるし

ヨハネの問いに対するイエスの答は、22-23節です。「行って、見聞きしたことをヨハネに伝えなさい。目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き、重い皮膚病を患っている人は清くなり、耳の聞こえない人は聞こえ、死者は生き返り、貧しい人は福音を告げ知らされている。私につまずかない人は幸いである」。

イエス様は、ヨハネの問いに「私に間違いのないから心配するな」とは言われませんでした。メシアの登場によって起こっている出来事を見よ、と言われました。ヨハネがまもなく処刑されることを、イエスは知っておられます。死んでも希望を持つことができるように、イエスによって起こっている出来事を伝えよと、言われたのです。

この言葉を聞けば、ヨハネはすぐ分かるはずですが、イザヤ書35章の「荒れ野に水わきいで」です (p1116) イエスの言葉に直接引用されているのは、35：5.6です。しかし、これを聞くだけで、ヨハネはイザヤ書35章全体を思うことができました。35章は際立って美しい詩であり、今でも多くの賛美歌になっています。

特に、出だしは「荒れ野に水、砂漠に花」すなわち、死から命を語る復活の詩です。処刑目前のヨハネに希望を持たせる詩です。また、人を恐れず神の言葉を語ったヨハネに、たとえ処刑されても、正しい裁きをなす神が来て救ってくださるといふ希望を与えます。

だから、「私につまずかない人は幸いである」と言われました。そもそも、この話の始まりは18節、ヨハネの弟子たちは、「これらすべてのことについてヨハネに知らせた」とあります。7章の「百人隊長の僕をいやす」、「やもめの息子を生き返らせる」を含む「これらすべてのことについて」ですが、17節によると、「イエスについてのこの話は、ユダヤ全土と周りの地方一帯に広まった」とあるので、当然、ヨハネの弟子たちも聞いて、牢屋にいるヨハネ先生に知らせたのでした。

III イエスにつまずかない人は幸い

20世紀に、イスラエルの死海のほとりで旧約聖書の写本の発掘がありました。クムラン教団という禁欲的な一派がいたことが分かりました。当然、ヨハネの弟子たちとの関連が研究されました。33節のイエス様の言葉は、そんなまじめな宗教生活を悪く言う人々がいたことが分かります。「洗礼者ヨハネが来て、パンも食べずぶどう酒も飲まずにいると、あなたがたは、『あれは悪霊に取りつかれている』と言う。」ヨハネは旧約預言者エリヤのようなファッションをしていました。マント一枚、らくだの毛衣を着て、荒野でイナゴと野蜜を食べていました。

一方34節「人の子」イエスは、カナの婚宴よろしく、よく食べよく飲みました。それに対して非難して悪口を言う人々がいました。「見ろ、大食漢で大酒飲みだ。」

要するに、宗教をまじめに考える人は、いつでも少ないのです。今の時代の日本も同じです。葬式の時だけお寺にお世話になる人が多い。生きている時にお寺に行って、まじめに真理探求をして座禅に取り組む人は少ないのです。また、結婚式の時だけキリスト教にお付き合いする人が多い。生きている時に、まじめに聖書を読んで教会に行ってみようという人は少ないのです。

「しかし」、35節「知恵の正しさは、それに従うすべての人によって証明される」と主イエスは言われました。2000年前、イエスは、御自分の回りに起こっている神のわざをもってヨハネに証明されました。2000年の間、キリストによって開かれた天国の門に、世界中からぞくぞくと、人々が押し寄せて来ました。

2021年、日本のふじみ野市鶴ヶ岡という小さな町にもキリストの教会があつて、天国への入り口となっています。59年間、天国行きのパスポートを発行し続けた教会が、来年は伝道開始60周年を迎えようとしています。

主イエスが来るべき方、メシアであるということは、今も生きて働いておられるキリストが、御自身の言葉と業によって証明されています。そのイエス・キリストが今も言われます。「私につまずかない人は幸いである。」